

広告

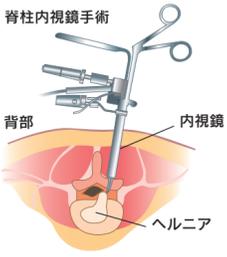
KUMAMOTU
Medical
Net

腰部脊髄管狭窄症について教えてください。

背骨の中の神経の通り道である脊髄管が加齢と共に狭くなり、神経を圧迫するために起こる病気で、下肢の痛みやしびれにより歩行が困難になります。歩いていると足が痛くなったりしびれたりするけれど、前かがみになったり、座ってしばらく休んだりしている

腰の痛みで来院する方も多いのですが、脊髄管狭窄症について教えてください。

背骨の中の神経の通り道である脊髄管が加齢と共に狭くなり、神経を圧迫するために起こる病気で、下肢の痛みやしびれにより歩行が困難になります。歩いていると足が痛くなったりしびれたりするけれど、前かがみになったり、座ってしばらく休んだりしている



成尾整形外科病院 院長
藤本 徹氏

1991年宮崎医科大学卒業。熊本大学医学部付属病院、延岡病院、熊本労災病院を経て、2000年熊本大学大学院医学研究科(外科系博士課程)卒業。06年から熊本大学医学部付属病院勤務。21年から特任准教授。23年4月から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医。



医療最前線

選択肢広がる整形外科治療
腰や膝の痛みにも寄り添う
専門的治療で早期の社会復帰へ

腰部脊髄管狭窄症

今年4月、院長に就任された抱負をお聞かせください。

と、また歩けるようになる「間欠跛行」と呼ばれる症状が特徴的です。10分以上の連続歩行ができない場合は、専門医の診断を受けることをお勧めします。患者さまの体の動きや痛みの範囲などを観察し、レントゲンやCT、MRIなどの画像診断と照らし合わせ、痛みの原因を見極めていきます。

と、また歩けるようになる「間欠跛行」と呼ばれる症状が特徴的です。10分以上の連続歩行ができない場合は、専門医の診断を受けることをお勧めします。患者さまの体の動きや痛みの範囲などを観察し、レントゲンやCT、MRIなどの画像診断と照らし合わせ、痛みの原因を見極めていきます。

と、また歩けるようになる「間欠跛行」と呼ばれる症状が特徴的です。10分以上の連続歩行ができない場合は、専門医の診断を受けることをお勧めします。患者さまの体の動きや痛みの範囲などを観察し、レントゲンやCT、MRIなどの画像診断と照らし合わせ、痛みの原因を見極めていきます。

腰や膝の耐え難い痛みは、日常生活に支障を来します。近年、効果的な新薬が登場し、体への負担が少ない低侵襲の治療法が確立されています。2023(令和5)年4月に新院長を迎え、新たな体制で脊椎疾患・関節疾患の専門性を生かし治療に当たる成尾整形外科病院の専門医に話を聞きました。

自分の体の状態を把握するために、痛みがあれば早めに専門医の診断を仰ぐことが大切です。今はいろいろな所から簡単に情報を得られます。



医療法人社団 誠療会
成尾整形外科病院
NARUO ORTHOPEDIC HOSPITAL

【診療科目】◎整形外科 ◎リハビリテーション科 ◎リウマチ科 ◎内科 ◎麻酔科(中野伸彦) ◎漢方内科

【診療日】月曜日～土曜日 ※土曜日は午前だけの診療です。
担当医師は診療曜日・時間によって異なります

【診療時間】平日/ 9:00～17:30、土曜日/ 9:00～12:30
※外来受診は予約制となります。事前にお電話でご予約をお願いいたします。

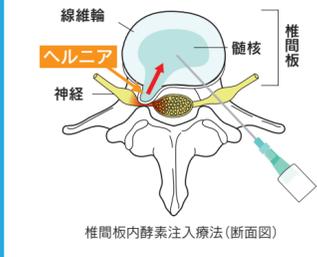
【休診日】日曜日、祝日、土曜日午後、年末年始



成尾整形外科病院 理事長
成尾 政一郎氏

ヘルニアや圧迫骨折に有効な治療があるそうです。

椎間板ヘルニアの治療は、これまでは薬や神経ブロックが主流で、改善しない場合は、内視鏡や顕微鏡を使った手術に移行するケースが大半でしたが当院では、2020年から新薬を使った椎間板内酵素注入療法(ヘルニコ



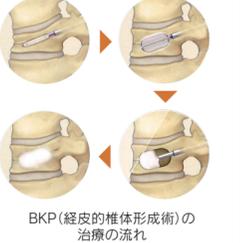
この数字は、椎間板ヘルニアといった専門性の高い医療に取り組んできた当院への信頼と今後への期待の表れだと思っています。一人一人が抱えている痛みが和らぐため、長年の痛みから解放され、本人が希望する社会復帰ができるよう、医師とリハビリがさらなる連携を図りながら取り組んでいきます。

「これくらい我慢したり、治療への不安から診察を先延ばしにしたりしている人は多いですよ。痛みが自然と改善に向かえばよいのですが、痛みがあるけれど我慢しながら生活することで症状が慢性化し、日常生活に支障を来している人もいます。脊椎、膝関節についても、従来のような大がかりな手術ではなく、体への負担が少ない治療法が開発されたことで、治療を受けられた患者さまからは、「もっと早く来ればよかった」という声を頂いています。

ア(保険適用)を積極的に使っています。この治療法は、保存療法と手術療法の中間に位置するもので、保存療法では症状が改善されず手術に踏み切れない人に推奨するものです。治療は15分程度で終わり、様子を見るため1日入院していただきます。また、戻りも楽な治療法です。これは「骨粗鬆症性椎体圧迫骨折」と言われ、治療にはBKP(経皮的椎体形成術)が有効です。この手術は、背中から圧迫骨折した椎体に細い管を通して骨折部分を修復する治療法です。手術翌日にはリハビリを開始し、経過を見ながら1～2週間退院できます。

これらの治療には専門的知識と経験が必要です。

今年4月、熊本大学病院から脊椎脊髄腫瘍など専門性の高い現場で働いておられた藤本徹医師を院長として迎えるほか、麻酔医も増員し、総勢13人の医師で患者さまの治療に当たっています。昨年(2022年4月～23年3月)の手術件数は、脊椎関連が845件、関節が1204件、その他の手術も合わせ1204件に上りました。



BKP(経皮的椎体形成術)の治療の流れ

2002年熊本大学医学部卒業。こども総合療育センター、熊本労災病院、大牟田天徳病院、済生会熊本病院、人吉医療センターなどを経て、2018年4月から勤務。関節・外傷・スポーツ障害などを担当。日本整形外科学会認定整形外科専門医。



成尾整形外科病院 関節外科部長
林田 実氏

変形性膝関節症

自分の体に関心のある人が増えていっていると思います。しかしその情報が正しいかどうかは、やはりしっかりとした診断の裏付けがないと、後々の生活に支障を来しかねません。

変形性膝関節症の治療は。

まずは、痛みに応じて炎症を抑える鎮痛剤や湿布、ヒアルロン酸などの注射を基本とした保存的治療を施します。場合によっては器具療法で、関節の負担を軽減したり、リハビリで筋力の強化を行ったりしながら可動域の改善を図ったりします。それでも改善が見られなければ、内視鏡を用いた手術を検討するほか、膝の変形が進行している場合は、骨切り術や人工関節置換術などの手術を行います。近年は、自身の血液を用いた膝関節の炎症を抑制する治療法もあり、治療の選択肢は確実に増えていきます。いずれの治療においても大切なのは的確な診断です。気になる症状がある方はもちろん、治療をしないけれども何年も改善が見られない方も、セカンドオピニオンを検討してみてください。

成尾整形外科病院 検索

〒862-0958 熊本中央区岡田町12-24(白山通り)
TEL 096-371-1188(代表)